⇒　イタリア、フランス、ドイツの三人のねむり姫

イタリアのねむり姫　１７世紀バロック時代のナポリの詩人バジーレによる「太陽と月とターリア（Sole, Luna, et Talia)」
『魔法にかかり、麻の繊維が原因で死んでしまった娘に、王が恋をします。生まれた子ども「太陽と月」によって生きかえったターリアは、王の妃から殺されようとしますが、無事に王と結ばれます。』
（１９２５年ベネディクト・クローチェが標準イタリア語で「ペンタメローネ（Pentamerone)」として刊行）

フランスのねむり姫　１８世紀ロココ調で書かれたペローによる「眠れる森の美女（Conte de la belle au bois dormant)」
『つむで百年の眠りについたお姫さまを目覚めさせた王子は、自分の城に帰ります。父王の死後、母の王太后は、王妃と二人の子ども（曙と太陽）を殺そうとしますが、失敗し死んでしまいます。』